



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年3・4月  
第327号

病院だより第327号 (2019年3・4月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報委員長 今井 敦

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

Tel

045-971-1151



2019年4月 180名の新入職員を迎えました

### 就任のご挨拶

藤が丘病院事務部長・藤が丘リハビリテーション病院事務長  
小川 秀樹

この度、4月1日付けで羽田徳永事務部長の後任として、藤が丘病院事務部長および藤が丘リハビリテーション病院事務長として着任いたしました小川秀樹と申します。私は、昭和63年の入職以来、昭和大学病院医事課、藤が丘病院医事課、豊洲病院医事課、江東豊洲病院医事課と30年にわたり附属病院の医事部門で勤務し、昨年は法人に新設された統括医療経営戦略事務室において、附属病院の経営分析・運営企画に携わり、昭和大学での職歴の全てで病院業務に関ってまいりましたが、本職を拝命し、その責任の重大さを痛感しております。微力ではございますが、藤が丘病院および藤が丘リハビリテーション病院の発展のため誠心誠意努力していく所存でございますので、皆様方のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



藤が丘病院は、昭和50年の開院以来40年以上に亘って、高度急性期医療の提供、救急指定病院として救急医療体制の提供など、横浜市北部地域における中核病院としての役割を担ってきました。また、リハビリテーション病院は平成2年に開院し、リハビリテーションの専門施設として総合的なリハビリテーション医療を提供してまいりました。このように藤が丘駅前地区において、地域と一緒に歩んできた病院ですが、現在「藤が丘駅周辺の新たなまちづくり」が検討されています。将来に向け安心して豊かなまちづくりには健康の維持・増進、医療の充実は欠かせません。当院の医療機能をソフト・ハードの両面から向上させ、地域住民の皆様に愛され、地域医師会の先生方に信頼される病院として発展し、地域医療支援病院として地域医療に貢献していくことが肝要であると考えます。そのために、昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」(常に相手の立場に立ってまごころを尽くす)を体現し、病院スタッフの皆様と一緒に藤が丘病院・リハビリテーション病院の更なる発展を実現していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 定年退職を迎えて

藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院看護部  
伊部 富士子

私は、昭和大学医学部附属看護専門学校から数えて42年間昭和大学にお世話になりました。昭和55年4月に昭和大学病院に入職して2年目に17階建の入院棟が完成、平成9年には中央棟が完成し、入院棟10階病棟から中央棟のC9B病棟に引っ越しをしました。平成12年に昭和大学横浜市北部病院開設準備室に異動し、新病院の立ち上げに関わることができ、貴重な体験をすることができました。平成13年4月1日に開院を迎え、電子カルテ導入など、とても忙しく、大変苦勞しましたが達成感があり自慢の思い出となりました。平成24年に昭和大学藤が丘病院に異動、翌年には昭和大学藤が丘病院と昭和大学リハビリテーション病院の看護部長に就任し、6年が経過しました。その間、日本医療機能評価機構の病院機能評価受審や電子カルテ導入などを経験しました。



新病院に関われないことは残念ですが、地域に根付いた病院として皆様のご活躍と益々の病院の繁栄を願っております。今まで私を育てて頂いた昭和大学、そして皆様に支えられ無事この日を迎え、平成最後の年に退職致します。今までお世話になり本当に有難うございました。

### 定年退職を迎えて

藤が丘病院臨床病理検査室  
杉山 弘

私は1981年(昭和58年)昭和大学薬学部を卒業し、昭和大学病院臨床検査部に入職しました。昭和大学病院では主に生化学、尿一般、免疫化学などの検体検査部門を担当し、1985年12月に一級臨床検査士(臨床化学)



資格認定試験に合格してからは、検査室の責任ある立場を任せ、研究活動や後輩の指導を行って参りました。2010年5月には昭和大学附属豊洲病院へ、2013年6月からは昭和大学藤が丘病院へ異動となりました。そして、2016年4月に藤が丘病院臨床病理検査室の責任者の職務に就いてから3年間勤め上げ、この度定年退職を迎えました。

藤が丘病院においては緊急検査、診察前検査の充実を図り、現在88項目が至急で検査できる体制を整えました。また、認定資格取得を検査室全体で取り組み、年々資格取得者が増加しております。

最後に、学生時代を含めて昭和大学に42年間お世話になったことを感謝し、藤が丘病院ならびに昭和大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 定年退職に寄せて

リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター  
大野 範夫

私は昭和56年4月に藤が丘病院に入職しました。そして、平成2年6月にリハビリテーション病院開設と同時に藤が丘病院から異動となり、開設時の立ち上げに関わりました。リハビリテーション病院開設時には、大学病院の柱である、「臨床、教育、研究」を充実させ、より良い職場にしようと、一緒に異動してきた同僚と遅くまで夢を語り合ったのを思い出します。



その後、2年半ほど旗の台の昭和大学病院での勤務を経た後、再びリハビリテーション病院に戻り、退職を迎えることとなりました。

在職中は、チーム医療とは直接患者さんに関わる医療職だけではなく、事務の方、防災の方、清掃の方など、多職種で行われるものだと思いつつながら仕事をしてきたつもりですが、至らぬ点も多々あり、皆様にはご迷惑をおかけしたことも、あったかと思えます。この場をお借りしまして、お詫び申し上げるとともに、お世話になった皆様へ感謝を申し上げたいと思います。長い間本当に、ありがとうございました。

医療最前線 循環器内科

## 最高の循環器救急診療と最先端医療を目指して

藤が丘病院循環器内科 鈴木 洋

昭和大学藤が丘病院循環器内科は、病院開設後まもなく創設されました。現在では、横浜市北部地区の循環器の中核拠点として、心筋梗塞等の虚血性心疾患のみならず、不整脈、心不全等の心臓疾患に加えて、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症等の血管疾患の治療も積極的に行っており、心臓、血管に関する幅広い病気を扱っています。また、大学病院として積極的に臨床研究にも取り組み、数多くの論文を発表しています。

## 診療体制、特徴的な治療領域

2019年4月現在、約20名の医局員で診療にあたり、その他に学外出張、海外留学、国内留学に医局員を派遣しています。当科に入局すると循環器内科の基礎知識を習得すべく各領域を研修するため、どの医師でもほとんどの循環器疾患に対応することが可能ですが、心臓カテーテル班、不整脈班、心不全エコー班、心臓リハビリテーション班に分かれ診療を行っています。



1) 虚血性心疾患治療: 急性心筋梗塞に関しては、集中治療室センターに常に医師が常駐し24時間365日患者さんを受け入れる体制が整っており、虚血性心疾患に対するカテーテル治療も年間約400例と数多くの患者さんを治療しています。循環器救急に関しては、神奈川県循環器救急レジストリーの代表施設として神奈川県の循環器救急で中心的な役割を果たしています。



2) 不整脈治療: 最近心房細動を含むカテーテルアブレーションを年間200例以上行っておりこれも県内有数の症例数です。デバイス治療に関しましては、リードレスペースメーカー植込み治療が、2017年から保険適応になりました。当院は国際共同治験参加施設、国内先行使用施設であり積極的に本治療を行っています。また、植込み型心電計に関しても、原因不明の失神に加えて、原因不明の脳梗塞の不整脈疾患の診断のためにも使用しています。

3) 末梢血管治療: 閉塞性動脈硬化症等の血管疾患に対してもカテーテル治療を積極的に行い、形成外科等とともに運営している重症下肢虚血センター(CLIセンター)で集学的治療を行い、遠方からの患者さんを多数ご紹介いただいています。また、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症に関してもフィルター留置術や肺血管拡張術を行っています。

4) 心不全治療

年間約7500件の心エコー検査、250~300件の経食道エコー検査、2500件の血管エコー検査を施行しています。さらに、約700件の冠動脈CT、約600件の心臓核医学検査を精力的におこなっています。また最近では心臓MRIや負荷エコーの件数も急速に増えています。

5) 心臓血管リハビリテーション治療: 心筋梗塞、心不全、心臓手術後、閉塞性動脈硬化症の患者さんのリハビリテーションは藤が丘リハビリテーション病院のリハビリテーション施設で行っており、神奈川県有数の症例数を扱っています。また、スポーツ循環器として、アスリートの心臓メディカルチェックを中心に臨床と研究を行っています。中高年のシニアアスリー

ト・運動愛好家も増えていますが、運動負荷試験を含めたメディカルチェックも行っています。

このように、今後も横浜市北部地域の中核病院として



循環器疾患の治療を積極的に行っていくと同時に、最高の循環器救急診療、最先端医療技術の提供を目指してまいりますのでよろしくお願い致します。

## ブラックジャックセミナーを開催しました

平成31年2月24日(日)午後、藤が丘病院にて、横浜市青葉区内の小学生5・6年生を対象に、将来の医療を担う人材育成を目的とした体験型のセミナー「ブラックジャックセミナー(横浜市教育委員会後援)」を開催しました。

当日は多くの参加希望者から抽選で選ばれた41名が参加し、内視鏡や腹腔鏡のトレーニング、皮膚の縫合や心肺蘇生法のトレーニング、超音波メスの体験など、最新の医療機器を使った体験に皆、意欲的に取り組んでいました。

また、後日、心のこもった参加報告を頂戴し、スタッフ一同とてもうれしく思い、励みとなりました。

今回で6回目の開催となりますが、近い将来、このセミナーをきっかけに医師を目指す子供たちが現れることを願っています。



(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

## 接遇マナー講習会が開催されました

平成31年3月6日(水)に患者サービス委員会主催の藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 接遇マナー講習会を行いました。100名近くの医師や看護師等の様々な職種の職員が受講いたしました。今回は講師に株式会社トリプルウインの平口穂奈美先生をお招きし、患者さん及び職員間の正しいコミュニケーションの取り方に



ついて具体的な事例を示しながら参加型講演をして頂きました。今後も引き続き、職員の接遇マナー向上に努めてまいります。

(藤が丘病院管理課 小泉 春樹)

## 平成30年度第2回公開講座を開催しました

平成31年3月9日(土)午後、藤が丘病院C棟講堂にて平成30年度第2回藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院公開講座が開催され、98名の方が受講されました。今回は『暮らしと健康』をテーマに、藤が丘病院内視鏡センターの山本頼正センター長より「早く見つけて治そう 胃がん、大腸がん」と、藤が丘リハビリテーション病院眼科の徳永義郎助教より「白内障についてあれこれ」の2題の講演が行われました。受講者はメモを取りながら熱心に聞き入り、講演終了後は多くの質問が寄せられ、演者は一つ一つに真摯かつ丁寧に答えていました。



藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院では、今後も地域の方々の意向を反映し、誰でも気軽に参加できる公開講座を開催していきたいと考えております。



(藤が丘病院管理課 高橋 良治)

## 藤が丘病院・リハビリ病院第1回研究発表会を開催しました

平成31年3月16日(土)午後、藤が丘病院C棟講堂にて、藤が丘病院・リハビリ病院両院の医学研究の活性化に寄与することを目的に、藤が丘病院・リハビリ病院第1回研究発表会が開催され、医師、コメディカル等合わせて38名が参加しました。

当日は、医師9名、コメディカル3名から12題の講演が行われ、活発な質疑応答を繰り返しました。今後も定期的に研究会を開催し、藤が丘・リハビリ両院の医学研究の活性化を図りたいと考えております。皆様のご協力・ご支援の程どうぞよろしくお願いいたします。



(藤が丘病院管理課 毛利 綾香)

## 神奈川県警察と「事件現場医療派遣チームの運用に関する協定」を締結しました

昭和大学藤が丘病院は、3月27日(水)に神奈川県警察本部にて事件現場医療派遣チーム(通称:IMAT<sup>※</sup>)の運用に関する協定締結式を行いました。

本協定は、事件発生現場またはその周辺で傷病者が発生する可能性がある場合に、神奈川県警察の要請により出動した昭和大学藤が丘病院の医療チームが待機し、傷病者発生時には、現場から医療機関へ救急搬送するまでの間に応急の治療を行い救命率の向上を図ることを目的とするものです。医療派遣チームの基本構成は、医師1名、看護師その他の医療従事者2名、計3名の構成です。

全国では警視庁、千葉県警察に次いで3例目となり、4月1日から運用が開始されます。



※IMAT(Incident Medical Assistance Team)  
(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

がん患者・家族サロンは今後も様々なミニレクチャーなどを盛り込み開催いたします。開催日時につきましては院内ポスターやホームページに掲載いたしますので、お気軽にご参加ください。



(藤が丘病院管理課 石塚 美雪)

## 春の訪れ —チューリップが咲きました—

日ごとに暖かさを感じるようになり、春の訪れを告げる頃となりました。藤が丘病院正面玄関前花壇にも、春を感じさせるものがあります。高橋院長が患者さんから頂いたチューリップの球根を花壇に植えました。私は、人生の中で植物とは無縁でしたので、インターネットで育て方を学習しました。12月初旬に植えた球根は2月中旬にはかわいい芽を出し、今では、徐々に花を咲かせています。初めて植物を育てる私としては、うれしくほっこりした気持ちになりました。これからも防災センタースタッフ一同で見守っていきたいと思います。皆さんも花壇へ足を運んで春を感じてみてはいかがでしょうか？

## 藤が丘病院がん患者・家族サロンを開催しました

平成31年3月30日(土)に藤が丘病院がん患者・家族サロンを開催しました。このがん患者・家族サロンは、がん患者さんやご家族同士が、同じ立場で自らの経験や日頃のお話をする事で、不安感や孤独感を和らげることを目的とした患者さん・ご家族の交流の場です。今回は藤が丘病院の理学療法士による「楽に誰でもできるストレッチ方法」というテーマの講演を行い、実際に簡単なストレッチを体験していただきました。参加された方々からは「また参加してみたい」「とても有意義な時間だった」などの感想をいただきました。



平成31年4月11日現在  
(藤が丘病院防災センター 相川 久幸)

## 診療統計 2019年2月・3月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年2月	2019年3月	2019年2月	2019年3月
外来患者数	26,272人 (1,142.2人)	29,064人 (1162.6人)	4,257人 (185.1人)	4,720人 (188.8人)
入院患者数	15,277人 (545.6人)	17,243人 (556.2人)	5,207人 (186.0人)	5,512人 (177.8人)
紹介率	83.6%	83.1%	70.6%	68.6%
逆紹介率	68.5%	68.0%	92.5%	96.6%

### 《広報委員会委員》

今井 敦	原田 浩史	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
泉 紀子	角田 博子	高木 睦子	鈴木 美穂	藤宮 龍祥	東 哲士人
岡部 圭吾	斉藤 あずさ	和田 洋一	(順不同)		